

# 横川っ子だより



きずな  
絆 ~つながり~

コロナではじまり、コロナでおわる、そして、コロナはつづく・・・

コロナ禍の年、私たちの生活は一変しました。長期の休校や外出自粛、行事の中止、集会の制限など、学校生活においても不自由で窮屈な生活が続きました。

その一方で、「うつらない・うつさない」取り組みが、子どもたちのきまりやルールを守ろうとする行動、自分の身は自分で守ろうとする行動に変わっていき、新しい生活様式が生まれる中で、新たなチャレンジをして乗り越えることができました。変化の激しい一年、子どもたちの生き抜く力に、私たちも希望をもらったのではないのでしょうか。

今から10年前の2011年3月11日に起きた東日本大震災は、今でも記憶に残っています。その日、普段どおりの生活を過ごしていたところ、14時46分、突然、大きな地震が起きました。そして、黒い津波が町を壊し、人をのみ込み、多くの尊い命が亡くなりました。黒い津波の正体は、海の底にたまった「ヘドロ」でした。

「いつか起きる」と考えると、防災に対して受け身の気持ち（人任せ）になりますが、「明日起きてもおかしくない」「今日起きてもおかしくない」と考えると、前向きに防災対策に動き出さなければならないという気持ち（自分事）になります。

横川小学校は、風水害や地震で家屋の倒壊などが発生した場合の「避難所」として、また、災害時に一時的に避難する「応急避難場所」として指定されています。

もし、今日、地震が起きたら、私たちはどう行動すればよいのでしょうか。3密を避けるため、体育館以外の滞在スペースも確保する必要があります。

また、地域の人が集まってきたときに、防災設備はどこに何があるのか、どこに避難すればよいかなど、だれでもわかる案内表示も必要な気がします。

今後、横川小学校は、地域とともに、防災学習に取り組み、命を守るために、みんなと一緒に生き延びるために、さらに学校と地域のつながりを大切にしていきたいと思えます。



ひがしにほんだいいしんさい ねん ひとびと ふっこう む まえむ  
東日本大震災から10年、人々は復興に向けて、前向きにがんばっています。そのとき、  
みんなの心こころを強くしたのは、「絆きずな」（つながり）という言葉ことばでした。絆きずなという漢字には、  
「糸いと」という字が含まれています。糸は細くて切れやすいと思われませんが、糸は繊維いとをまと  
めてねじることにより、とても強く仕上げられています。

かしゅ なかじま うた いと うた  
歌手の中島みゆきさんの歌に、「糸」という歌があります。

たて いと よこ いと わたし  
縦の糸はあなた 横の糸は私  
お めの だれ  
織りなす布は いくつか誰かを  
あたた  
暖めうるかもしれない



ひと いと たと であ かろうせい うた であ けっ どうにん  
人を糸と例えて、「出会い」の可能性を歌っています。出会いは決して当人だけのものでは  
なく、誰かの希望だれ きぼうとなることもあるのだと歌詞から伝わってきます。人と人がつながると、  
希望きぼうが変わっていく、そんな気持ちになります。

さいご よこがわ こおうえんたい とうろく ちいき みなさま いちねん めん  
最後に、横川っ子応援隊にご登録いただいた地域の皆様には、この一年、さまざまな面か  
らあたたかいご支援をいただきました。

とうげこう みまも  
登下校の見守りでは、子どもが横断歩道を安全に渡れるように立って声をかけてく  
ださり、安心して登下校することができました。

かんきょうせいび  
環境整備では、除草作業や樹木の枝切り、遊具のペンキ塗りなど、学校だけではでき  
ないことをしていただき、学校が明るくきれいになりました。

ちいき かんきょうがくしゅう  
地域の環境学習では、使い捨てカイロの鉄炭を使った元気玉を作って霞池に投げ  
入れ、水質改善に挑戦しました。米作りでは稲刈り体験をさせていただきました。そして、  
観察池で蛭の卵を放流し観察させていただきました。

さくひんてんじ  
作品展示では、陶芸、木工、能面、パッチワーク、押し花アートなど、さまざまな作品  
をご提供いただき、校内に展示をさせていただきました。

みなさま ほんとう  
皆様、本当にありがとうございました。